



〒954-0052

見附市学校町 2 - 7 - 9

電話 / Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和5年6月21日 NO.3

名木野小学校「運動会」

「中学年 ; 80M走」

指導観 一考察 その③

学校教育課 課長補佐 関 拓也

以前私は、自分の住む地域や社会の諸問題について考えたり、解決に向けて実際に行動したりする学びを経験した子どもたちが、その後どのような仕事をしたり、生活したりしているのか、調べたことがあります。過疎化が進み、限界集落となった地域を離れても、故郷に多様な形で関わり続ける人、山間地に新規で産業を興そうと試みている人、小学校や中学校の経験を大切に、教職に就いた人など様々な様子がわかりました。そこから見えてきたのが、「小学校や中学校でふるさとに関する学びが心に強く残っている子どもは、自分とふるさとの関係性を人生の中で様々に作りだし、問題意識をもって生きていく可能性が高い」ということでした。



今年度見附市の教育では、地域の産業界との関わりや協働を通して、ふるさと見附を愛し、課題解決に向けて主体的に行動する子どもを育てていくことを目指す、「アントレプレナーシップ教育」の視点に基づいた実践を大事にしています。とはいえ、地域や市内企業等との大人とともに活動する教育活動を構想し、実施することは大きな困難さを感じることを思います。

しかし、「アントレプレナーシップ教育」は、ゼロからの取組ではありません。各学校において「課題発見、解決、行動する能力を育むために、地域の人と協働の学びを実践する」ことは、見附の教育で大事にしている「共創郷育」をベースに取り組んできたSDGs、キャリア教育、防災教育等の枠組みの中で、十分に実現可能だと考えます。

このように考えて教育活動を実践することにより、子どもは、これまで以上にふるさと見附に関心を寄せ、大人と同様に、あるいは大人以上に「ふるさとに対する主体的かつ多様な問題意識や、豊かな関係性、価値観を生み出す姿」が期待できます。またこれらの取組は、「元気なまちをつくる人づくり」に直結するものと考えます。見附の未来やこれから社会を創る子どもたちを、みんなで育てていきましょう。

巻頭写真に寄せて 一応援団長の言葉に感極まる一

◇右写真は名木野小学校玄関前の花の寄せ植えです。市の施設(ナーセリー)から提供のパンジーに、ピンクのゼラニウムの花が加わり誠に美しいです。去年はパッションフルーツでアーチが作られ、子どもたちはその中を通して登校していました。



古い校舎ですが、学校を訪れる者を、種々の植物で迎えてくれる素晴らしい学校です。◇さて、校長先生から、「T君が応援団長になったんですよ。運動会に来ませんか。」と誘いを受けました。T君は自分から進んで主張するというより、友だちの遊びを脇で見ているようなおとなしい子どもです。その彼が団長になったのです。嬉しくて運動会を見

るといふより、ほとんど彼の応援で5月27日(土)に出かけました。◇マスクなし。声出し応援ありの4年ぶりの普通の運動会。いいえ、右写真は開会式の稲田校長先生です。赤いシャツに白いパンツ姿で、「本気で競い合うことで自分と仲間をもっと好きになる…」と、熱く語られて競技開始。子どもたちの心をぐっと掴む校長、最高です。



◇校長先生が願った「本気で競い合う競技」が行われました。徒競走で懸命に走る子どもたちが目の前を次々と駆け抜けました。赤組M団長、白組T団長率いる応援合戦も最高のパフォーマンスでした。すべてが終わり「競技の部・優勝赤。応援の部・優勝赤。総合優勝は赤組。」と、成績発表があり白組団長のT君はうつむいていました。両団長の感想発表で指揮台に上がっても、マイクを額に押し当てたままでしたが、ついに顔を上げ『みんな、ぼくについてきてくれてありがとう…』と、素直な感謝の言葉をしっかりと話したのです。



◇私は、ちびまる子ちゃんの友造じいさんが、孫に感動するように、うるっとしながら、大きな拍手をしていました。人が成長するのは、上手くいった時ばかりではありません。上手くいかなかった時、それを乗り越えた時に、逞しく成長することをT君の姿に学びました。



コラム 「包み込む温かい指導が、子どもたちの成長をはぐくむ」

◇名木野小学校の運動会は、オープニングで60年以上続く伝統の鼓笛演奏が行われます。早朝から保護者ばかりでなく、祖父母や地域の皆さんが大勢集まって下さるのは、この演奏を聴くためです。今年も5・6年生が最高の演奏をしました。(下左写真)

◇さて、今年度、この鼓笛の指導は6年生のF先生です。私は運動会の前日、鼓笛の最後の練習を見せてもらいに出かけました。(下右写真)鼓笛演奏は、去年の運動会でも聴かせてもらいましたが、今年度は創立150周年事業で購入したマーチングキーボードも加わり、実に美しい演奏になっていました。ただ、楽器の種類が増えれば、合わせるのは難しくなります。F先生は指揮者の脇で黙って聴いていましたが、さらによくなるポイントを優しい言葉で簡潔に話されて、もう一回練習をして終了しました。F先生の指導で、一層素敵なお演奏になりました。常に子どもたちを信じ、優しい言葉で指導をされるF先生に学ぶことが多いです。学習指導や学級経営でも同じです。優しい言葉で包み込む温かい指導をされます。イソップ童話の「北風と太陽」を思い起こします。子どもたちは太陽のような先生が大好きです。皆さん、温かい指導をお願いします。(こ)



4時から夢塾「科学の世界にどっぷりとつかりましょう」

第1回「4時から夢塾」を5月31日(水)、県立教育センター指導主事の篠田英先生から『考察力を高めるには～理科の授業改善～』の演題で、以下のような指導を頂いた。

◇ 考察力が重要視される背景を様々な角度から見ていく

1 考察とは何か

- (1) 大小のビーカーを同じように叩くと何が違う？ →音の高さ
- (2) 同型のビーカーに違う量の水を入れると高いのは？ →少量
- (3) グランドピアノの高い音は弦が短く張られている。

○ 考察(実験結果からいえること)とは・

- ① 科学的根拠をもって、論理的に理由を記述すること。
- ② 結果を総括し、科学的根拠をもって規則性等を導き出すこと。

2 実習 ～考察を書いてみよう～

- ① 肥料と水をちゃんと与えた植物は日光を当てた方が成長する。
- ② 化学変化の前後で総質量は変わらない = 質量保存の法則
- ③ どの植物も気孔は葉の裏に多い = この思い込みや先入観が、思考に限界をつくることもある ⇒なぜ裏に多い？を考察する。

3 考察を書かせる時の具体的な5つのポイント

- ① 感想は交えない。
- ② まずは「個人」で書かせる。(自分の中でまとめる。)
- ③ 実験結果から「何がわかったのか」を書く。
- ④ 実験結果で簡潔になっても長い文章になっても良い。
- ⑤ 余裕があれば、全体の前で発表させる。(更に自信が付く。)

4 なぜ今、考察力を高める必要があるのか

○ 「考察力」が求められる、現代ならではの背景

- ① 公立学校入試・全国学力テスト・大学入試共通テスト等の出題傾向が変容した。
- ② ICTの普及で、単なる記憶だけならそちらに任せれば良い。
⇒大事なことは、答えを出すことは大切だが、そこへ至る過程、すなわち、思考して考察する力こそ、人間が生きていく上で必要不可欠なスキルであること。

5 令和の児童・生徒、そして教師に求められること

- ・知識(既習事項)や与えられた条件等から、その場で自分なり考えて、判断して、行動していくこと。⇒常日頃から「考察力」を磨いておくこと。生き方を学ぶこと！
- ・理科の教師自身が科学の世界にどっぷりつかって「考察力は大事」を再認識すること。

<参加者の声>

- ・科学的根拠をもとにして、物事を考察していく力が必要だと感じた。
- ・ビーカーの音の実験や演奏を、篠田先生が楽しそうにやられているのが印象に残った。
- ・今日の研修は、やりたいと思っていたことの背中を押して(勇気)もらえ有り難かった。
- ・理科の学習内容と日常生活を結び付けて考えたいと思っていたが、参考になった。
- ・考察は書かせていない教員が多い。どのような事を書かせたらよいか参考になった。
- ・結果・考察・振り返りの書き分けを説明するのに苦労しているが、ヒントをもらった。
- ・「結果をもとにそれを一般化・法則化していくことが考察力である」が印象に残った。



篠田 英 先生



4時から夢塾 「幼保小の接続で虹の架け橋を」

第2回「4時から夢塾」を6月2日(金)、教育センターの外山 孝 先生から「幼保小の円滑な接続」の演題で、指導を頂いた。ポイントを箇条書きで紹介します。



I 幼保小の段差をいかした接続にむけた「3つの架け橋」

(1) 見附市の接続期は…「幼保小の円滑な接続と適度な段差」

○小学校に入学した子どもたちが小学校の教育活動に慣れる工夫 外山 孝 先生

- ・短いサイクルの学習や1日の生活の流れ等で新一年生が安心して学校生活を送る。
- ・幼児期のカリキュラム5領域 ⇒ 1年生のカリキュラム各教科・領域

(2) 適度な段差をいかした「幼児期と1年生のつながり」…基本的な生活習慣

- 適度な段差を接続にいかしたいけど…園の先生方、学校の先生方それぞれの悩み
- ・園の先生…小学校に参観に行くと、園で上手く出来ていたことが出来ていない。
 - ・学校の先生…教室から出て行く。集中出来ない…園の時はなかったみたいだけど。

(3) 適度な段差を接続にいかしましょう「幼保小の円滑な接続に向けて」

① 文科省の「架け橋プログラム」5歳から小1の2年間のカリキュラム

- ・2カ年は生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるための重要な時期」⇒『架け橋期としましょう』

② これまでの接続期をいかして

⇒園と学校の教職員の皆さんが子どもの育ちを中心に、話し合いを通して理解し合い情報を共有しましょう。



③ これまで接続を確認してみませんか ⇒ 「子どもの交流」「職員の交流」を大切にしながら、時にはショートの間接接続期カリキュラムを行う。

④ 今ある接続期のやり取りを、もう少し長い期間接続期として

⇒園校ともに子どもたちを参観し、情報の共有をしましょう。



II その子に合った接続期を

- ・目の前の子どもについて「話し合い」「共有」しましょう。
- ・園校が互いの取り組みを理解し合い、皆さんで一人一人の子どもの Well-being を！



- <参加者の声>**・1年生になってからの姿をイメージした関わりが大切と感じた。(保)
- ・園と小学校との交流の場が少ない。小学校との共有や連携が大切だと感じた。(保)
 - ・それぞれのやり方や向き合い方を、互いに理解を深めていく必要性を感じた。(保)
 - ・情報交換会の参観で、1年生が自分を幼保の先生に見てもらおうと張り切っていた。(小)
 - ・「幼保小の円滑な接続と適度な段差」を生かして、連携を楽しみにできるといい。(小)
 - ・園と学校が仲良くなることのアイディアをたくさん頂いた。困り感の共有も大事ですが、互いに楽しく交流することが、とても大事だと思った。(小)

6月

科学教育部



《今月の1枚》

子を探すキジ(子は3羽いますよ)

6月の単元別研修会から

「小3～6 天体を学ぶ」の単元別研修会を6月15日(木)に教育センター実験室で行いました。残念ながら朝から雨が降っていましたが、16時位から太陽が見え始めました。教育センター屋上からソーラースコープ(貸出OK)を用いて太陽を実際に観察しようと試みましたが、日光が弱く観察することはできませんでした。この他にも、ICT教材の活用サイトを紹介しました。

6月から9月の主な天文現象を紹介します。

月日	主な天文現象	備考
6月2日～3日 6月13日～14日	火星がプレセペ星団を通過	西の方向が開けた場所が適しています。双眼鏡で美しい光景が楽しめます。
6月22日	金星, 火星, 月が集合	金星(-4.4等), 火星(1.7等), 月(月齢4)が集まって, 二等辺三角形を形作って輝きます。
7月10日	火星がレグルスに接近	火星(1.7等)がしし座の1等星レグルス(1.4等)に大接近します。近くには金星(-4.5等)も輝きます。
8月12日～13日	夏の風物詩, ペルセウス座流星群	月明かりがなく好条件で観測できます。1時間に100個ほどの流星を見ることが出来ます。
8月31日	「スーパームーン」で「ブルームーン」	1年のうちで地球の中心と月の中心が最も近い時の満月を「スーパームーン」と呼びます。また, 8月は2日と31日が満月です。1か月に2回満月となる時, 2回目の満月を「ブルームーン」と呼びます。
9月29日	中秋の名月(十五夜)	
9月21日	さそり座の赤い1等星が月に隠される	アンタレス食を18年ぶりに見ることが出来ます。太陽が沈まないうちにアンタレス(1.1等)が上弦前の月(月齢6.3)の暗い縁に隠され, 空に星が見えてきたころ, 月の明るい縁から出現します。 なお, 当日は教育センターで天体観察会を行います。

※研修会の申込については終了していますが, 新たな参加も大歓迎です。希望がありましたら教育センターまで電話, メールもしくはC4thの「個人連絡」で申込をしてください。

要請研修会も受け付けております～こんなときに活用してください～

- 研修会に参加したいけれど日程の都合がつかない。
- 理科を初めてもしくは, 経験がない学年で不安がある。
- 実験の方法がわからない, 予備実験でうまくいかない。

教育センター 科学教育部 担当:早田・長谷
 TEL・FAX 62-2343
 E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp
 C4thの個人連絡
 「教育委員会 教育センター」

科学の公園

季節性インフルエンザについて

全国的に学校で、季節性インフルエンザが流行していました。新潟県も例外ではなく、2月ごろからインフルエンザ流行レベルは注意報が警報に代わり、5月末まで注意報が発令されていました。世界保健機関（WHO）重症インフルエンザ治療ガイドライン委員を務める慶應義塾大学医学部の菅谷憲夫客員教授の分析結果の要旨を掲載します。

菅谷憲夫客員教授は学校における季節性インフルエンザの流行について、次のように述べている。

「昨年12月から始まった季節性インフルエンザの流行は今年2月にピークとなり、3月下旬に収束したように見えた。ところが、患者数は再び増加に転じている。学校では集団感染も起きている。報道によると、各地で、学級閉鎖や学年閉鎖になる学校が増えている。そもそも、インフルのウイルスは乾燥した低温の状況で活発に活動します。なので、この時期にインフルが流行していることを『異常』と伝えているマスメディアがあります。しかし、日本のコロナ流行前のインフル流行状況を見ると、2018年5、6月にA香港型インフルが流行しました。19年は6、7月までB型インフルが流行しました。ですから、6月まで流行が続いても、格別、異常とはいえません。ただ、今回のように、梅雨入りの季節に高校の休校や、規模の大きな学級閉鎖が報告されるのは異常です。」

菅谷教授は、日本人のインフルに対する免疫が落ちているのではないかと分析している。

「小学生と比較すると、高校生はインフルにかかってきた回数が多いです。そのぶんインフルに対する免疫が高いはずですが、つまり、高校でインフルが流行しているということは、高校生でさえインフルに対する免疫が低下していることを意味します。

通常、インフルは毎年、流行します。一方、人々は流行と接することでインフルに対する免疫を保ちます。ところが、日本では21年と22年にインフルの流行がありませんでした。それによって、国民全体の集団免疫が低下していると考えられます。日本国民の多くは3年以上、A香港型インフルの流行に接していませんでした。特に19年春以降に生まれたほとんどの乳幼児はA香港型の抗体を持っていないこととなります。欧米では1シーズン、インフルの流行が起こりませんでした。日本では2シーズン、インフルの流行が起こりませんでした。ですから、日本人のインフルに対する免疫は欧米人よりも落ちていると思われます。次の流行は例年よりも早期に始まり、大きなものになると予測しています。」

さらに、菅谷教授は今後について述べています。

「通常、インフルのワクチン接種は10月から始まります。ワクチン接種以外のインフル予防法は、マスクの着用や手指消毒などです。その重要性は多くの国民に浸透しているはずですが、インフルのワクチンは卵を使用して製造するので、緊急に大量生産することはできません。なので、今年の秋はインフルに気をつけよう、という意識を国民全体が持つことが大切です。政府もあらかじめ対策を練っておく必要があります」

参考文献：国立感染症研究所ホームページ（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/>）

AERA dot.（<https://dot.asahi.com/education/>）